

全柔連だより

題字/嘉納行光

●発行人/上村春樹 ●編集/広報委員会 ●発行/財団法人全日本柔道連盟(<http://www.judo.or.jp/>)

世界柔道選手権2010東京大会

～本家日本大活躍～

1958年(昭和33年)大会から実に52年ぶりの東京開催となった世界柔道選手権2010東京大会は、9月9日(木)から13日(月)の5日間、国立代々木競技場第一体育館にて行われ、無事に閉幕した。

今大会から各階級に各国2名(無差別は4名)がエントリー可能となり、111カ国・地域から総勢848名が参加。日本も各階級にフルエントリーした。

男子が金メダル4、銀1、銅5、女子は金メダル6、銀3、銅4を獲得する活躍で大会を盛り上げた。そこで大会実行委員長として尽力した小野沢弘史全柔連専務理事に、大会を終えて話を聞いた。

今回の世界選手権は、柔道の「原点」と「本物」というテーマを、力強く発信するメッセージ性を持った大会にすることとした。

遠来の方々に、日本の大会に参加してよかった、応援にきて良かったと多くの人々に思ってもらえる印象深い大会になるように雰囲気盛り上げ、完璧な大会を目指した。

しかし、世界選手権は国際柔道連盟(IJF)主催の大会であり、大会運営面でIJFの目指す国際大会のあり方を色濃く反映するところが多く、これまで国内で開催してきた国際大会の運営方法との調整に苦心した。

大会終了後の海外からの評価は、日本での大会らしい演出と精度の高い競技運営だと良好であった。

また、ルール改正で組み合っの攻防が多くなり、試合としての醍醐味が増したことに加えて日本選手の活躍が大会を大いに盛り上げてくれた。

日本は柔道発祥国として、柔道の魅力をより高め、さらなる柔道の発展のために先手の対応を心がけ、世界の柔道界への発信力を更に強めていくことの必要性を再認識した世界選手権大会であった。